



福井県池田町観光 **むらづくり** 計画

風土で未来へつなぐ **いけだせかい**



令和2年2月
福井県池田町

目次



1章 計画の考え方

- 【1】計画策定の目的 … 2ページ
- 【2】計画の構成及び期間 … 2ページ
- 【3】計画の方向性 … 3ページ
- 【4】関連する既存の計画や施策 … 4ページ

2章 池田町の観光の現状と課題

- 【1】池田町の観光の現状 … 5ページ
- 【2】池田町の観光の課題 … 7ページ

3章 池田町観光むらづくり計画の方針

- 【1】基本理念 … 8ページ
- 【2】この計画の数値目標 … 9ページ
- 【3】SDGsへの取り組み … 9ページ
- 【4】基本方針 … 10ページ
- 【5】体系図 … 11ページ

4章 池田町観光むらづくり計画施策

- 【1】農業を活かし農村の営みを守る … 12ページ
- 【2】環境を育み感動につなげる … 15ページ
- 【3】地域の元気を作り出す … 18ページ
- 【4】町民みんなが池田町を好きになる … 22ページ

5章 池田町観光むらづくり計画の推進体制

- 【1】計画推進の方針 … 23ページ
- 【2】計画推進に向けた役割 … 23ページ
- 【3】計画の進捗管理と効果検証 … 24ページ

- 資料 … 25ページ

1章 計画策定の考え方



【1】 計画策定の目的

- 池田町では平成26年3月から5年程度を計画期間とする「農村観光中期実行計画」を策定し、「あたりまえの暮らしが舞台」という基本理念のもと、観光事業を実施してきました。
- 農村観光中期実行計画以降、こってコテいけだやツリーピクニックアドベンチャーいけだ(以下、TPAという。)といった、池田町で行ってきた観光事業によって、魅力や雇用が創出され、交流人口や移住者が増え、観光事業は一定の成果をみせてきました。
- 観光分野に密接な関係のある食については、「ゆうきげんき正直農業」(平成12年度～)をはじめとする、地域資源循環農業の取り組みが評価され、池田町産農産物のブランディングに成功しています。
- この期間中、日本国内においては、インバウンドの増加、情報通信技術の発達による旅行形態やPR形態の変化があった他、今後、北陸新幹線の敦賀延伸、国道417号冠山トンネルの開通といったインフラ整備が進み、これらの状況が、池田町に影響を及ぼすことは想像に難くない状況となっています。
- 一方で、町内では移住者は増加しているものの、高齢化と人口減少は止まることがなく、観光も農業もプレイヤーが不足しつつあります。
- 「地方創生総合戦略」(平成28年3月)においては、「すみか」「しごと」「なかま」をキーワードに、豊かさの原点に立ち返って地域づくりを行い、池田町の地方創生を実施するとしており、そこでも観光の果たす役割は小さくないとされています。
- こうした、町内外の動きをチャンスと捉え、観光という切り口から、町民一人ひとりがプレイヤーとなり、事業者、関係団体、地域、行政が一丸となってむらづくりを行うため、「池田町観光むらづくり計画」を策定します。



冠山トンネルの概要
(出典:国土交通省)

【2】 計画の構成及び期間

(1) 構成

この計画は、「基本理念」「基本施策」及び「事業計画」で構成します。

(2) 期間

令和2年度～令和6年度の5年間とします。



【3】 計画策定の方向性

- 本計画は、観光が池田町のむらづくりにどのように貢献することができるのか、また、観光をツールとして、町民が主役になるむらづくりができないかという視点で計画しています。
- そのため、単に、観光客と観光消費額を増やすことを目的とするのではなく、持続可能なむらづくりを意識した計画となっています。
- 計画策定にあたり、平成27年度～平成28年度に実施した「町政問題懇話会」の各部会から、その問題を解決するための観光分野の役割を紐解きました。

| 部会 | 若者と女性の暮らし環境充実部会 | 食と農と環境のまちづくり戦略部会 | 地域と集落自治機能のあり方検討部会 |
|------------|--|--|--|
| 部会からの報告 | アンケートによると、20～30代は、池田町に戻りたい意思はあるが、現実的に難しいと考えてる。また、Uターン・転入を決める要素は、田舎らしい自然や良好な人間関係であり、転出を決める要素は、進学、就職、結婚、住居や仕事の都合、買い物物の不便さが挙げられた。また、その居住地の決定権は女性にあることが多く、子育て世代でUターン願望が強いことが分かった。よって、女性に対し「暮らしていけるという情報」の見える化が必要である。 | 池田町の地域資源循環型農業は外部評価が高く、豊かな自然環境や農村風景を守ることに繋がっており、観光客や移住者への魅力になっている。また農産物に対する外部の評価も高い。一方、食に関する計画がなく、町ぐるみの広がりには広がっていない。また、町民からの評価は低く、農業や環境に関わる人は高齢化し、子育て世代の主婦層とのつながりが低下している。 | 家ごとのライフスタイルや家族構成の多様性、少子高齢化、勤務形態の変化により、家単位の協働活動は難しくなっている。集落で共同作業しなくてはならないことが減っているがゆえ、集落自治に対する意識が薄くなっている。人口が減ってなくなるのは、町より集落が先であることへの危機感が薄い。そこで、女性や若者に任せる仕掛けをつくり、新たな集落運営(例:集落福祉活動、集落での農家レストランや民泊運営、集落での行政事務受託による収入確保)を提案する。 |
| 観光に求められるもの | <ul style="list-style-type: none"> ●田舎らしい自然や良好な人間関係を残すための施策 ●女性が暮らしていきたいくなる情報の発信 | <ul style="list-style-type: none"> ●現在の農業を守りながら景観を守ること ●若い世代を含めた取り組みを推進し、食の自己評価を上げること ●農や環境の取り組みに経済効果をもたらす施策 | <ul style="list-style-type: none"> ●若い世代や女性を含めた取り組みを推進すること ●自力で稼ぎ、行政がなくなっても機能する集落や地区を目指す状態を作る事 |

- 以上の結果から、「循環型農業、環境活動、農村風景、田舎らしい自然、良好な人間関係」を残しながら、「情報発信、イメージ戦略、経済効果の実感、若い世代と女性の取込、集落や地区の自主性、食に関すること」を今後促進していくことを、この計画の方向性としてしました。



丁寧に作られた畑



【4】 関連する既存の計画や施策

(1) 町の計画

本計画策定にあたり、下記の既存の計画との整合性をとり、連携を図っていきます。

●環境向上基本計画（平成15年度）

自助(ゴミを減らす、野焼きをしない、など)、共助(エコポイント、河川クリーン作戦など)、公助(条例、食Uターン事業など)で連携しながら、環境理想郷を目指すもの。計画策定以降、世界的にさらに環境意識が高まっていることから、計画以上の環境政策が求められる。

●脳べるの改革（平成28年度）

「脳」と「食べる」を見直し、町全体で認知症予防を実施する。高齢化が進む日本で、認知症予防は関心の高い話題であり、ヘルスツーリズムという面からも今後観光との連携が考えられる分野である。

●地方創生総合戦略（平成28年度）

池田の人口ビジョン「2040年に2200人、2060年に2000人」に向けて、「豊国の農村」を目指し、「すみか」「しごと」「なかま」の3つのカテゴリに目標を設定した計画。景観維持、外貨獲得、なかま作りという点で、観光に重要な役割付けがされている。令和2年度に見直しを実施する。

●池田町公共施設等総合管理計画（平成29年度）

池田町の公共施設の管理や改修に関する計画であるが、平成初期に整備した志津原地区観光施設の修繕については、観光計画によると記載されている。

●農村農業振興プラン（平成29年度）

平成30年度から3年間の農業振興についての計画である。計画の中でも、食や産物の販売に直結していく部分や、担い手対策、6次化、グリーンツーリズムに関する部分において、観光計画との連携が必須となる。

(2) 広域連携市町との関連

以下の計画や事業の他、福井県が策定する各種計画や事業とも連携を図ります。

●丹南地域周遊・滞在型観光推進計画（平成29年度～令和4年度）

丹南地区5市町(越前市・鯖江市・越前町・南越前町・池田町)が連携して、広域で観光周遊を促そうとする計画。伝統工芸や産業、自然、農林漁業の「本物の体験」を提供すること、それをPRすることで誘客を図り、滞在時間の増を図ろうとするもの。

●ふくい嶺北連携中枢都市圏事業（令和元年度～）

福井市が中心となり、福井県嶺北地域が連携して取り組む観光振興事業。観光に関する研修や、PR活動等で連携を図っている。



越前和紙の里

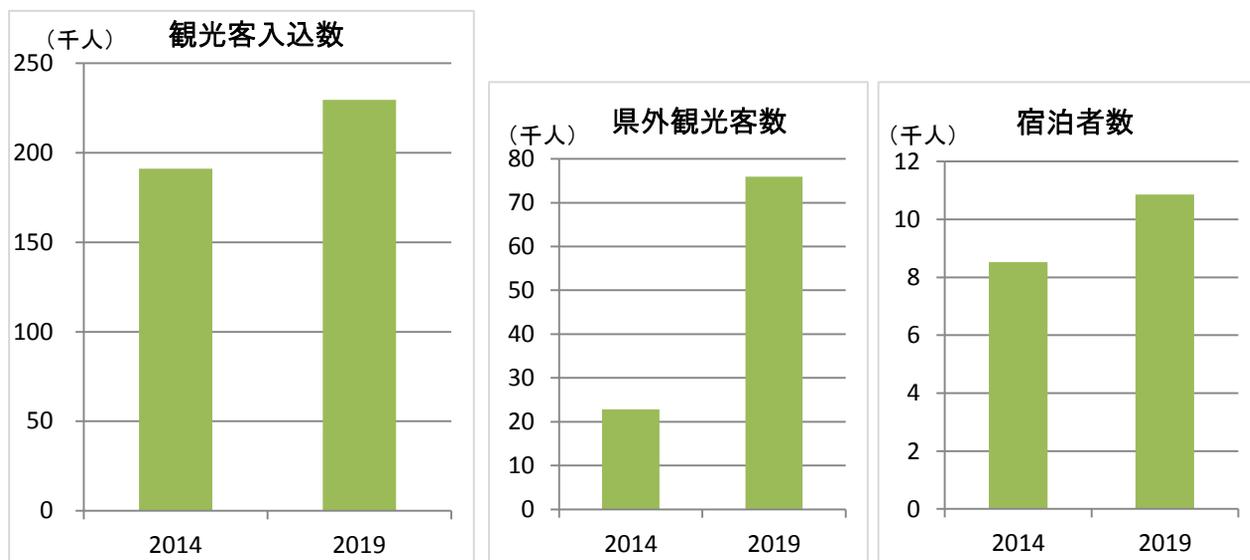


朝倉氏遺跡



【1】池田町の観光の現状

(1) 観光客の入込



「農村中期実行計画」以降、入込数は約1.2倍、県外からの観光客が約3.3倍、宿泊者数は約1.3倍となりました。特に、県外客の伸びが大きく、広告やメディアへのPRが功を奏し「観光地としての池田町」の知名度があがったと思われます。一方、個別のデータでは、2019年は、TPAだけで県外客が32,000人以上おり、増加分の県外客のほとんどはTPAのお客様となっています。

(2) 町内の宿泊施設と飲食店等

① 宿泊施設

令和2年1月現在、宿泊施設は、民泊を合わせて7か所あり、キャパシティは合計256床となっています。シングルルームはほとんどなく、風呂トイレ共同の施設(または、風呂の提供がなく、冠荘を利用する施設)が多く、一人旅やバストイレ付の部屋を希望される方の取りこぼしが見られます。また、繁忙期は満室になることが多く、町外に宿泊客が流れています。



冠荘客室

② 飲食店

シーズン営業の店舗を含めて13の飲食店がありますが、ほとんどが火曜または水曜が定休日で、その曜日は昼食がとりにくい状況です。また、夜間に予約なしで営業しているのは2店のみとなっています。



こってこていけだ
村の食堂

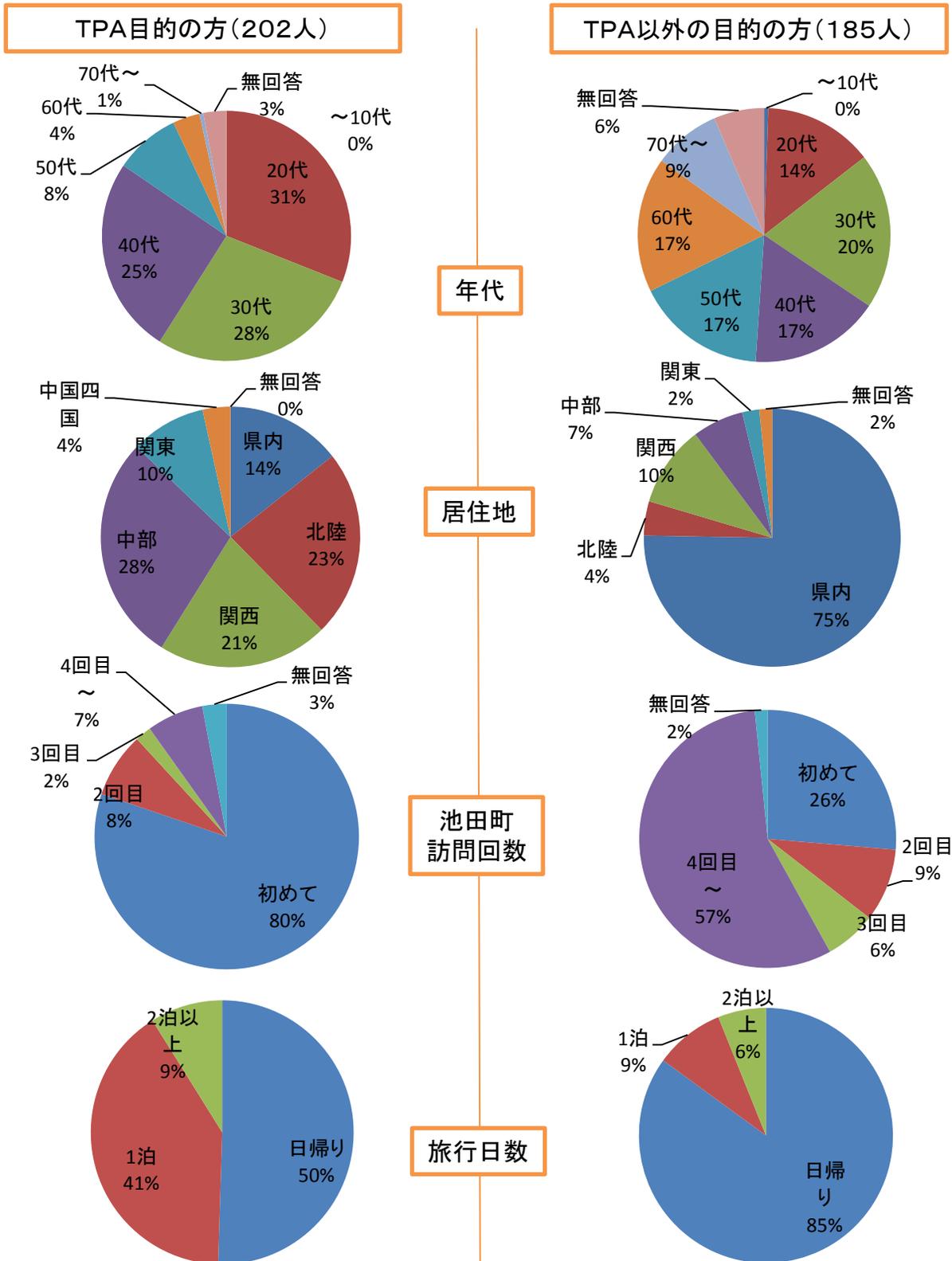
③ お土産もの

お土産物は、主にこってこていけだで販売しています。冠荘やTPAでも販売していますが、野菜については、こってこていけだでのみの販売となっています。



(3) 観光客の実態

2018年5月と8月に、町内観光地でお客様への聞き取り調査を実施しました。



TPAを目的の方は平均年齢が低い傾向にあり、県外客がほとんどです。TPAが目的の方は初来町が多く、宿泊を伴う旅行が半数を占めます。居住地は中部が最も多く、関西、北陸からも多く来ていただいているが、関東や、中国四国地方では山口県という方もおられ、非常に広い範囲で集客できています。TPA以外を目的の方は、県内からのリピーターが多くなっています。今後、TPAをきっかけに初めて池田町に来られた方に、リピーターになってもらう仕掛けが、志津原エリアで必要となっています。



【2】池田町の観光の課題

(1) 誘客関係

- ・志津原地区(主にTPA)から、町内を周遊させる仕組みが必要。
- ・冠山トンネル開通後に通過点とらないようにしなくてはならない。



TPA
アドベンチャーパーク

(2) 宿泊関係

- ・部屋にユニットバスとトイレが付いているタイプの部屋を希望される方や一人旅を希望される方に対応できる宿泊施設がない。
- ・繁忙期と閑散期の差が大きい。
- ・キャンプ場がなく、アウトドアの需要に対応できない。



TPA
キャビン

(3) 飲食・物販関係

- ・特定の曜日に昼食をとれる店が極端に少ない。
- ・夕食をとれる店がほとんどない。
- ・メニューが偏っている。
- ・ジビエや山菜、川魚の需要があるにもかかわらず、それらを提供する店が限られている。また、町内の飲食店もそれらの仕入れに苦労している。
- ・地元の野菜を買えるところがない。町内の飲食店も仕入れに苦労している。
- ・今後、人口減少と農業者や山に入る人の高齢化により、野菜や山菜等の流通がさらに厳しくなることが予想される。
- ・お土産物を買えるところが少ない。また、名物となるお土産がない。



酔虎夢
池田山賊井

(4) 観光に従事する人に関するもの

- ・どの施設も人員が不足している。集客の平均化により、安定した雇用の確保が必要。
- ・従業員の子どもや従業員が介護する家族を預ける環境が不足している。



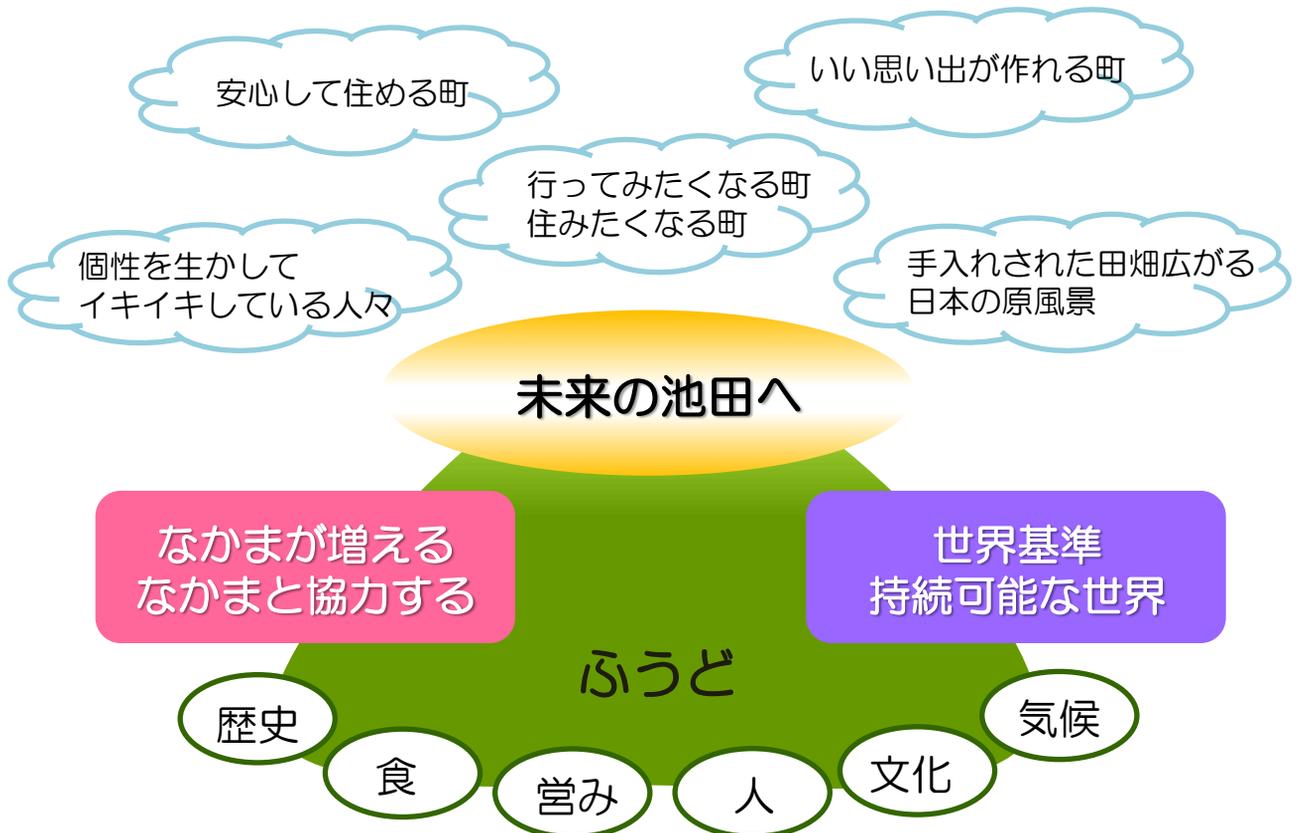
なかよしこども園



【1】基本理念

風土で未来へつなぐ いけだせかい

- 池田町には、先人たちの「今だけ、自分だけ、お金だけ」ではない営みによって、「日本の原風景のような農村風景」「あたりまえの暮らし」が残されています。
- 農業だけでなく、町民がこつこつと行ってきた環境美化活動や集落の仕事、さらには日々のそれぞれの暮らしが池田町を形作っています。
- 「風土」は「Food」でもあります。池田の土地や気候や歴史、そして農林産物や山の恵み、それらを作り、活かす営み。
自然と向合いながら、自然の恵みに感謝しながら、丁寧に持続させていく農村の営みが、昨今、世界規模で見直されてきています。
- また、「風土」とは「風の人と土の人」、つまり、「来訪者と町民」であり、「移住者と元々の町民」でもあります。池田町には、組織、立場、年齢、事業者などの枠を超えて助け合い、池田町の営みに共感する人をなかまとして受け入れる寛容さもあります。
- 池田町らしい「世界」基準の営みを今後も継続しながら発展させ、町内に住む全ての人、団体、事業者、さらには、営みに共感して池田町にやってきてくれる人も含めて、なかまを増やし、「未来」へつなげる観光むらづくりを行っていきます。





【2】この計画の数値目標

この計画を実行するにあたっての5年後の数値目標を以下のとおり定めます。

(1) 観光むらづくり人口

観光の目線でむらづくりに関わる人口(延べ人数)を1つの指標とします。

・第一次観光むらづくり人口

宿泊や飲食、体験事業など、第一線で観光の携わる人

令和元年度
約150人



令和6年度
約200人
(令和6年度予測人口の8%)

・第二次観光むらづくり人口

農業(兼業含む)や交通などの観光に寄与する取組を行う人や、環境活動を生活に取り入れている住民

令和元年度
約400人



令和6年度
約1900人
(令和6年度予測人口の約80%)

・第三次観光むらづくり人口

ふるさと納税の納税者や、CSA・CCPA(※12ページ参照)の相手方人数

令和元年度
18人



令和6年度
約1000人

(2) 効果測定

観光効果の検証に、以下の数値を目標に定めます。

・観光入込客数と観光消費額

令和元年度
入込客数 229.5千人
消費額 401,586千円



令和6年度
入込客数 250千人
消費額 564,500千円

・観光入込客における宿泊者の割合

令和元年度
約5%



令和6年度
約10%

【3】SDGsへの取り組み

この計画は、未来に持続可能な池田町への取り組みであり、また、世界規模でみても持続可能な取り組みへの先進事例が含まれ、SDGsとの親和性がとても高いものであると思われます。計画の事業、一つひとつが、SDGsの目標に当てはまるものであることから、施策ごとにSDGsの目標アイコンを表示しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





【4】基本方針

基本理念に基づいて展開する基本方針を次の通り定めます。

1. 農業を活かし農村の営みを守る

池田町の資源循環型農業は、取組の内容も農産物も非常に評価が高く、食の提供という面だけでなく、まちづくりや観光の面においても非常に重要な要素となっています。池田町の農村風景には、人の手による丁寧な管理や、四季折々の変化、さらにそこに関わる人々の笑顔があり、来訪者に感動を与えています。今後もまちぐるみで農業を推進するとともに、地産地消の推進、更なる活用を目指していきます。

[基本施策]

- (1) 農業を活かす
- (2) 地産地消を進め、消費を促進する
- (3) 食の安全を高める



こっぼい屋の集荷



2. 環境を育み感動につなげる

長年池田町で行ってきた環境に関する活動は、農業と共に、池田町の美しい風景を守っています。また、先人たちが残してくれた自然や風土にあった造作物も、貴重な財産です。これらが、町民にも来訪者にも、発見と感動を与える取り組みを行います。

[基本施策]

- (1) 環境を育む
- (2) 環境で感動をつくる



3. 地域の元気を作り出す

一人ひとりが日々を楽しく暮らし、地域に活力があると、そこに惹かれる人がやってきます。池田町に移住し、新しいことに挑戦する人も増えています。また、冠山トンネルや北陸新幹線敦賀延伸といった、新たな環境の変化もあります。その中で、町民の挑戦を応援しながら地域の元気を作り出し、外部の人から「行ってみたい」「会ってみたい」「住んでみたい」と思われる地域を目指します。

[基本施策]

- (1) 住みたくなる地域を目指す
- (2) 訪れたくなる地域を目指す
- (3) 財産を活かし、チャンスをつくる



児童劇団はないろ



4. 町民みんなが池田の暮らしをもっと楽しむ

池田町のまちづくりは、役場が計画して役場で行うのではなく、町民のみなさん、事業者のみなさんが実行することで初めて動き始めます。町民のみなさんが池田町の暮らしを楽しみ、町民、事業者、団体、行政が垣根を越えて、池田町のまちづくりに少しでもかかわっていき、「池田町はいいところ」と一人ひとりが胸を張って言える町を目指します。





【5】 体系図

風土で未来へつなぐいけだせかい

【1】 農業を活かし 農村の営みを 守る

- | | |
|------------------------|--|
| (1) 農業を活かす | <ul style="list-style-type: none"> ① ゆうきげんき正直農業の促進と価値をPR ② 農業に取り組む人を増やす ③ 農産物を売る方法を整理する |
| (2) 地産地消を進め 消費を促進する | <ul style="list-style-type: none"> ① 地元の野菜を使用する店と家庭を増やす ② 地元農林産物を活かしたお土産や食メニューの開発 |
| (3) 食の安全を 高める | <ul style="list-style-type: none"> ① 安心安全な食と人との交流が楽しめる仕掛けを行う ② すべての人が安心して食べられる環境づくり ③ 健康志向の食を打ちだし、ヘルスツーリズムを推進する |

【2】 環境を育み 感動につなげる

- | | |
|-------------------|---|
| (1) 環境を育む | <ul style="list-style-type: none"> ① 自然資源(川、山、滝など)の保全 ② 町内景観美化活動の実施 ③ 食Uターン事業を始めとする環境活動の発展 ④ セイタカアワダチソウ・オオキンケイギクの駆除活動 |
| (2) 環境で 感動をつくる | <ul style="list-style-type: none"> ① ホタルや星空を商品化し、都市部へPRを実施 ② サイクリスト向けメニューの開発 ③ 雨も雪も感動に変える |

【3】 地域の元気を 作り出す

- | | |
|------------------------|---|
| (1) 住みたくなる 地域を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ① 町内で働き楽しく生活できる環境をつくる ② 仲の良さを生かし、元気な集落をつくる ③ 移住しやすい環境を整備し、町内のプレイヤーを増やす |
| (2) 訪れたくなる 地域を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ① 来訪者に快適な環境を整える ② 子どもと家族が楽しめる環境をつくる ③ ユニバーサルデザインですべての人のおでかけを支援する |
| (3) 財産を活かし チャンスをつくる | <ul style="list-style-type: none"> ① 山の幸を提供できる体制づくりを行う ② 多様なPRを実施する ③ 能文化や神社、祭を観光資源として磨き上げ商品化する ④ 農村体験の充実 ⑤ 既存施設の魅力の向上 |

【4】 町民みんなが 池田の暮らしをもっと楽しむ

- ① 誰もが池田町広報マンとなる
- ② みんなで助け合える地域をつくる
- ③ 役場、事業者、住民の情報共有や協力連携を強化する



【1】 農業を活かし農村の営みを守る

(1) 農業を活かす



池田町のまちづくりと景観づくりの根幹をなすと言っても過言ではない地域循環型農業ですが、兼業、専業ともに農家が減少し、さらに高齢化も進んでいます。また、池田町で地域循環型農業が始まった当時以上に、国内での有機農産物への関心が高まっていることから、独自基準の「ゆうきげんき正直農業」の更なるPRが必要となっています。

① ゆうきげんき正直農業の促進と価値をPR

- ・町産農産物を安定して販売し続けることができるよう、ゆうきげんき正直農業の栽培方法及び認定基準とオーガニック認証との違いを明確にした上でPRを図り、改めて価値づけを行います。
- ・子ども園や町内学校の畑でも、ゆうきげんき正直農業を実施し、子どもたちからゆうきげんき正直農業への理解を深める取り組みを実施します。

【事業の例】

- ・役場や農業公社で、ゆうきげんき正直農業の消費者へのPRを実施する。
- ・子どもたちや子育て世帯に、ゆうきげんき正直農業を理解する授業や体験を実施する。

② 農業に取り組む人を増やす

- ・家庭の農地も含めて、農地活用についてきめ細かい政策を実施し、各家庭での自給自足を推進します。
- ・農業に少しでも興味のある誰もが、農業をやってみることができる環境と勉強できる場を提供します。
- ・高齢の101匠の会会員の事務や畑作業のサポートを実施します。



【事業の例】

- ・町民向けに、農業公社や101匠の会から指導を受けられる勉強用農地の貸出をする。
- ・各家庭で世話をする人がいなくなった農地を集落で活用し、畑仕事に詳しい人が他の人に教えたりする場をつくる。

③ 農産物を売る方法を整理する

- ・こっばい屋やこってコテいけだといった、既存の販売ルートその他、販売する方法を整理し、気軽に売れる体制、買える体制を整えます。
- ・CSA、CCPA(※)を積極的に展開します。
- ・「畑は直売所」のブラッシュアップと横展開を図ります。



こっばい屋

【事業の例】

- ・「こてイケ号」で野菜等の集荷も実施する。
- ・畑は直売所の実施方法について、広報を実施する。
- ・「おもしろい形の野菜選手権」を開催し、規格外野菜をなくす。

※CSA(コミュニティサポーターズアグリカルチャー)・CCPA(コミュニティコーポレートパートナーアグリカルチャー)
地域や企業が農家と協定して、農産品の購入や農作業体験を通じて農業を支援する取組。



(2) 地産地消を進め、消費を促進する



味や安全性ともに評価の高い池田町の農産物ですが、それらを活かした「池田町ならではのもの」「池田町の名物」と言われる加工食品がなく、来訪者のニーズに応えることができず経済の取りこぼしがある状況です。また、池田町で実施している「脳べるの改革」においては、減塩と発酵食品の導入、さらに学校給食での地産地消率50%を目指すとしています。池田町の農産物を活かした、ならではのものを開発し、来訪者に提供するとともに、農業で稼ぐことができる状態を目指します。

① 地元の野菜を使用する店と家庭を増やす

- ・飲食事業者と農家及び農業公社で、農産物がスムーズに流通する仕組みを構築します。
- ・飲食や加工事業者においては、町産品を使っている旨のPRを実施します。
- ・一般の家庭でも、町産農産物を消費することを促す取組を実施します。

【事業の例】

- ・食事業者と農業者が交流する機会を作り、お互いに情報交換する機会をつくる。
- ・飲食店等において、メニューやポップで、町産品を使っていることを掲示する。

② 地元農林産物を活かしたお土産や食メニューの開発

- ・来訪者に必要とされるお土産ものを調査し、加工事業者や販売事業者とともにお土産物開発を実施します。
- ・みそ、納豆、つけものといった、池田町でも昔から作られている発酵食品や、伝承料理のレシピを保存し、町民や事業者に周知して味と技術の継承を行います。
- ・新しいメニューを作りたい事業者等が専門家にアドバイスを受けるときの支援を実施します。

【事業の例】

- ・お土産物ニーズ調査を実施し、町内事業者による「お土産研究会」を立ち上げる。
- ・「荒谷屋」や「白いかっぱょうぎ」などの伝承料理の技がある団体と、若者や若い女性に関わることができる仕組みを作る。



おもちの母屋 季節のお昼膳



ばんこもち



(3) 食の安全を高める



池田町では、近隣市町に先駆けて、ゆうきげんき正直農業によって町ぐるみの無農薬(減農薬)有機栽培に取り組み、農産物の安心安全に一定の評価を得ることができました。しかし、近年、食の安心安全への意識はさらに高まり、近隣市町でも、無農薬有機栽培に取り組む農家が増えてきています。また、「安心安全」は栽培方法だけでなく、エンドユーザーの体質や宗教、習慣にまで多様化しています。さらに、どの自治体も「食」への取り組みを行っているため、より特徴ある取組が必要となっています。小さな町で、あらゆる施設が整っている池田町だからこそ提供できる、食に健康をからめた取り組みを実施します。

① 安心安全な食と人との交流が楽しめる仕掛けを行う

- ・いけだ食の文化祭を始めとする食に関するイベントを継続して行う他、事業者や個人が実施する、季節に合った食に関するプチイベントの開催を支援します。
- ・季節にあった食のPRを継続して実施します。



みそづくり体験

【事業の例】

- ・事業者や個人が実施する食に関するプチイベントを観光協会でPRする。
- ・「いけだごのみ」において、生産者を掘り下げた特集を実施する。

② すべての人が安心して食べられる環境づくり

- ・飲食や宿泊事業者がアレルギー対応できるよう支援するほか、エネルギー量や糖質量の表示を行う場合の支援をします。
- ・ベジタリアンやムスリムといった嗜好や宗教への対応を検討します。
- ・加工品については、アレルギー表示を徹底します。
- ・飲食店等において、安心安全な食材や調味料使用を徹底します。

【事業の例】

- ・事業者を対象に、アレルギーや化学調味料など食に関する勉強会を実施する。
- ・「食ラボ」を中心に、加工品のアレルギー表示の支援を実施する。

③ 健康志向の食を打ちだし、ヘルスツーリズムを推進する

- ・脳べるの改革メニューを飲食店で提供する取組を実施します。また、取り組みたい事業者を支援します。
- ・食事業者や宿泊事業者による、食のヘルスツーリズムに関する取組を支援します。
- ・食+α(森林セラピーや健康診断等)のヘルスツーリズムの可能性を検討します。

【事業の例】

- ・「脳べるの改革」メニューを提供している事業者を、役場や観光協会で積極的にPRする。
- ・希望する事業者を集め、食のヘルスツーリズムに関するワークショップを行い、メニュー開発の支援を行う。



【2】環境を育み感動につなげる

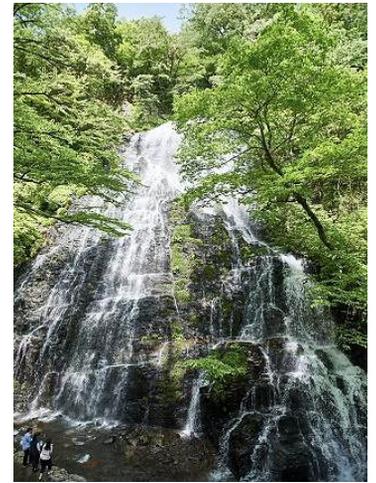


(1)環境を育む

町ぐるみで行っている環境活動は、農業と農村風景の維持になくてはならないものとなっています。町民の日々の暮らしが、観光資源となり、評価につながっています。また、先人たちが残してくれた自然も貴重な財産です。環境の取組を持続させ、自然を保全しながら活用し、後世にも来訪者にも伝える取り組みを実施します。

①自然資源(川、山、滝など)の保全

- ・龍双ヶ滝、部子山、冠山といった、特色ある自然の保護に努め、PRを実施します。
- ・池田町の自然を次世代に伝える取り組みを実施します。
- ・木望の森100年プロジェクトにおいて、有効な森林活用と森林保全を実施します。
- ・次世代に向けて確実に池田の環境を守るため、環境条例を制定します。



龍双ヶ滝

【事業の例】

- ・滝周辺の環境整備、冠山や部子山の登山道整備の実施。
- ・子供たちや子育て世代向けの自然体験イベントや自然環境学習の実施
- ・農村体験プログラム等を利用した、町内の子ども向けの自然体験イベントの実施
- ・子どもたちと広葉樹や実のなる木の植林活動を行う。
- ・施設等で、木質バイオマス等の再生可能エネルギーの導入を実施する。

②町内景観美化活動の実施

- ・事業者、集落、各家庭みんなが、所有する建物の周辺や所有する花壇の美化を行うとともに、さらにもう一步先の美化も行うような意識の高揚を促します。
- ・イベント等での来訪者のゴミの分別や持ち帰りを促します。
- ・飲食店や宿泊施設等でも環境活動を実施し、来訪者にも、環境のまち池田をPRします。
- ・空き家、空き地が適正に管理されるような取組を実施します。

【事業の例】

- ・河川クリーン作戦や、集落のクリーンデーへの参加の呼びかけ
- ・飲食店や宿泊施設等で、石油由来でない石鹼や洗剤等を利用又は配置するほか、プラスチックフリーの取り組みを実施する。
- ・宿泊者へのアメニティの配布を自粛する。
- ・集落の花壇のコンテストや、ゴミ拾い大会を実施する。
- ・危険な空き家、景観を損ねる空き家の撤去の要請を実施する。また、空き家活用の支援を実施する。



山からしみ出る水



③食Uターン事業を始めとする環境活動の発展

- ・環境Uフレンズによる食Uターン事業を継続し、イベント等を通じて食Uターンの意義をPRするとともに、会員の増や、食品資源の分別に協力する家庭を増やすことを支援します。
- ・子どものころから、環境まちづくり活動への参画を促します。
- ・各家庭や事業所で、食品ロスを減少させます。



食Uターンの回収

【事業の例】

- ・広報等による食品資源分別の協力呼びかけ
- ・食の文化祭等、食イベントでの環境活動のPR
- ・キッズエコポイントの新設
- ・食べ残しゼロ運動の実施

④セイタカアワダチソウ・オオキンケイギクの駆除活動

- ・町民によるセイタカアワダチソウやオオキンケイギク駆除活動を継続するとともに、「セイタカアワダチソウのない池田町」をPRします。

(2)環境で感動をつくる



池田町の自然や農村風景は、来訪者に感動を与えています。町民みんなで作り上げた環境や景観は観光資源として大きな役割を果たしているものの、経済効果を生み出すまでになっていません。経済効果を生み出すことは、町民の環境意識や農業への参加意識を高めるとともに、町民としての誇りを持つことにつながることから、しっかりとメニュー化し、商品とすることを推進します。

①ホテルや星空を商品化し、都市部へPRを実施

- ・ホテルや星空の鑑賞を旅行メニューとして組み込める取組を実施します。
- ・町内の子どもたちや町民のみなさんが、ホテルや星空が見える環境に誇りを持てるような取組を実施します。
- ・ホテルや星空を鑑賞しやすい環境について検討します。



池田の星空

【事業の例】

- ・宿泊メニューにホテルや星空鑑賞を組み込んだり、農村体験プログラムでもホテル観賞、星空観賞を取り入れる。
- ・町民の方に「ホテル通報」をしてもらい、ホテルマップを制作する。
- ・外灯計画や、景観ゾーニングを実施する。
- ・子供たちが池田町の星空に誇りを持つ取組として、日本宇宙少年団に入会する。



②サイクリスト向けメニューの開発

- ・自転車に乗りやすいまちづくりを実施し、エコな乗り物「自転車」の普及を目指します。
- ・サイクリストが楽しみやすい、周遊しやすい仕組みを検討します。
- ・サイクルツーリズムによる経済効果を高める取り組みを実施します。

【事業の例】

- ・サイクリストへのニーズ調査を実施する。
- ・サイクリスト向けの、道路や天気、観光情報の提供を行う。
- ・林道等を活用し、自転車のオフロードコースを整備する。



こってコテいけだ前の
バイクスタンド

③雨も雪も感動に変える

- ・雨や雪などの悪天候時にしか見ることができないもの、体験できないものをまとめてPRし、悪天候時の来訪者の減少幅を縮小する取組を実施します。

【事業の例】

- ・雨の日雪の日インスタコンテストの実施。
- ・悪天候時だけの限定サービスを提供する。



雨天にしか見られない
山の霧



ツリーピクニックアドベンチャーいけだ
メガジップライン ウインターバージョン



【3】地域の元気を作り出す

(1)住みたくなる地域を目指す



池田町の観光事業は、単に観光客を増やし、消費額を増加させることを目的とするのではなく、観光を通して、みんなで住みよい池田町にしていくことを大きな目的としています。来訪した方が池田町の人々が元気だと感じられるような取り組み、池田町に住む人が池田町に住み、働きやすい取り組みを行います。

①町内で働き楽しく生活できる環境をつくる

- ・町民のみなさんがサービス業で働きやすい環境を検討します。
- ・起業支援や営業支援等を継続するとともに、スモールビジネスやまちづくり活動を行う人を支援します。

【事業の例】

- ・土日が休みではないサービス業で働く子育て世代や、介護の必要な家族がある人が働きやすい保育や教育、介護サービスの検討を行う。
- ・ちっちゃな幸せ実現事業や、商工関係の各種支援事業を継続するほか、商品やイベントのPRの支援も行う。

②仲の良さを生かして元気な集落をつくる

- ・集落活性化事業を継続し、集落や地区による法人の設置支援と事業支援を継続する。
- ・集落で体験や民泊などの収益事業を実施することを支援する。

【事業の例】

- ・集落ごとに、空いた畑で体験農園を作り、農村体験事業を実施する。
- ・子育て世代や、会社勤めで農地の管理が十分にできない人を地域でサポートする仕組みを作る。
- ・集落で空き家の管理を行い、民泊などで集落の収益をつくることを支援する。

③移住しやすい環境を整備し、町内のプレイヤーを増やす

- ・暮LASSEL事業による空き家や仕事の情報提供を継続する。
- ・移住定住支援事業を継続する。



いけだ暮LASSEL



畑は直売所



(2)訪れたいくなる地域を目指す

来訪者が行先を決める際、場所への期待値とともに、来訪先で困りごとなく過ごせるかどうか大きな要素となります。また、困りごとなく過ごせる場所は、地元の人にとっても快適な場所とも言えます。様々な来訪者が、「来てよかった」と思える場所を目指します。

①来訪者に快適な環境を整える

- ・近隣市町とも協力し、近隣主要駅からの2次交通の確保と、池田町に来てからも来訪者に迷わせない施策を検討、実施します。
- ・池田町内での、マイカー以外の移動手段を検討します。
- ・公衆トイレや観光地のトイレを清潔にし、快適性向上を図ります。
- ・旅行業のある法人、団体を町内につくり、ワンストップでお客様の手続きができる体制を整えます。



マイバス

【事業の例】

- ・観光サイン看板(英語・日本語併記、ピクトグラム記載)を整備する。
- ・なかま号やマイバスのバス停をたてる。
- ・国や県の補助金を利用し、トイレの改修を実施する。

②子どもと家族が楽しめる環境をつくる

- ・お子様とのお出かけに便利な情報や、遊び場の情報を提供します。
- ・子どもだけで少し冒険できるような自然体験を検討します。

【事業の例】

- ・川遊びや外遊びの情報を提供するマップを作成する。
- ・授乳室や子ども用トイレ、簡易シャワーの整備をおこなう。
- ・子ども用の食事のメニューの検討や、アレルギー表示の徹底を行う。
- ・農村体験プログラムやTPAにおいて、子どもだけで体験できるものを実施する。



川遊び

③ユニバーサルデザインですべての人のお出かけを支援する

- ・高齢者や障害者の方が安心して出かけられるようなバリアフリーを意識した整備や改修と、障害のある方も五感で楽しめる体験を検討する。
- ・来られた外国の方が、困らないようにする。

【事業の例】

- ・多機能トイレの整備。
- ・町内で統一したピクトグラムを掲示する。
- ・川や木陰を楽しみ休憩できる場所を整備する。
- ・英語やひらがな、簡易な言葉を用いたパンフレットやリーフレットを制作する。



(3) 財産を活かしチャンスをつくる



池田町には、先人たちが残してくれた豊かな自然からもたらされる山の幸、川の幸があり、これらは、池田町の伝承料理に欠かせないものです。また、歴史深い能文化やたくさんの村社があり、池田町の誇りの創出と昔ながらの農村の営みの風景に欠かせないものとなっています。こうした先人からの財産は、現代の生活様式では守ることが難しくなっているからこそ、観光によって継続させる取り組みが必要です。

また、今後計画されている交通網の整備は、池田町の観光だけでなく、多方面に影響を与えることが予測されていますが、これをチャンスと捉え、既存観光施設の魅力向上にも取り組んでいきます。

①山の幸を提供できる体制づくりを行う

- ・山菜やキノコなどの採り方や採れる場所、処理の仕方を町内で継承する取組を実施します。
- ・山菜やキノコ等の価値を高める流通方法を検討します。
- ・有害鳥獣駆除を見直し、ジビエを流通させる体制を検討します。



山菜採り

【事業の例】

- ・山の名人バンク(仮)を設置し、名人と町民の弟子のマッチングを行い、採り方と採れる場所の継承を行う。
- ・こっぱい屋やこってコテだけでなく、WEB等での販売を検討する。
- ・有害鳥獣駆除の仕組みや、補助のあり方を見直すとともに、ジビエを流通させるための方策を検討する。

②多様なPRを実施する

- ・各種メディアやエージェントへの広告出稿や営業活動を継続します。メディアやエージェントは、ターゲット定め、戦略を持って選定します。また、個人や事業者がPRを行う際のアドバイス事業も継続して実施していきます。
- ・福井県や近隣市町、企業等と連携を図りながら、物産展や各種キャンペーン等を活用して池田町の知名度を上げるためのプロモーションを実施します。
- ・来訪者がSNS等で発信しやすい取組を実施します。また、来訪者の口コミによる情報発信を促します。



出向宣伝

【事業の例】

- ・飲食店等で、SNS投稿を促すポップやキャンペーンを実施する。
- ・口コミで広がるような、シニア層限定の紹介制度をつくる。



③能文化や神社、祭を観光資源として磨き上げ商品化する

- ・「水海の田楽能舞」をはじめとする能文化の継承のため、観光コンテンツとして磨き上げ、収益を能文化の継承に活用する仕組みをつくります。
- ・集落に残る祭を整理し、観光によって継承する仕組みを検討します。加えて、池田追分についても、継承の仕組みを検討します。



水海の田楽能舞

【事業の例】

- ・能衣装の着付け体験の実施。
- ・保存会等から能文化ガイドを育成し、能の観光コンテンツ化を図る。
- ・村の祭り(おみこしやどんど焼きなど)に外部の人も参加できる仕組み作り。

④農村体験の充実

- ・農村体験プログラムを継続し、教育の場でも活用できるような体制づくりと、体験のブラッシュアップを行います。
- ・伝統行事の体験プログラム化によって、伝統行事の継承や復活を行います。
- ・体験プログラムを地域の子どもたちに実施してもらい、誇りの創造を実施します。



農村体験プログラム

【事業の例】

- ・体験プログラムの請負を旅行業のある法人で実施し、商品化を行う。
- ・町民の誇りの創造を図るため、体験プログラムに町民価格を設定し、町民の参加を促す。

⑤既存施設の魅力の向上

- ・冠荘やそばの郷池田屋、かずら橋をはじめとする志津原、土合皿尾地区の魅力向上を行い、冠山トンネル開通後の福井県の玄関口としての価値を高めるとともに、チャレンジしたい人が気軽に販売等を行える場を作ります。また、町民も気軽に集い、活用できる場とします。
- ・ツリーピクニックアドベンチャーいけだをはじめとする木育、木活施設、及び農村de合宿キャンプセンターの教育的要素を高め、学びの場としての価値を高めます。



かずら橋



【4】町民みんなが池田の暮らしをもっと楽しむ



①誰もが池田町広報マンとなる

- 子供のころから、町民一人ひとりが池田町の良さを話せるようになる取組を行うとともに、役場やまちUPいけだの職員はもちろん、だれもが観光案内ができるようになれる取組を行います。

【事業の例】

- 地域の宝さがしとして「フェノロジーカレンダー作り」を行う。
- 学校行事や公民館行事で、町民が池田町を楽しめるものを行う。



池田大祭
子ども神輿

②みんなで助け合あえる地域をつくる

- 仕事の都合や体の不調などで、池田町での地域づくり活動になかなか参加できない人もいます。様々な家庭の事情に柔軟な地域づくりを目指すとともに、互いが助け合う意識作りを行います。

【事業の例】

- 高齢の方や体調がすぐれない方へ、集落や地域の保健推進委員、老人クラブなどで見守りを行う。
- いろんな働き方や家庭があることを考慮して、集落の活動を実施する。
- 池田町内での世代や組織を超えた友達づくりをする。
- 集落や地区での自主的な防犯、防災活動を実施する。

③役場、事業者、住民の情報共有や協力連携を強化する

- 役場からの情報公開を適切に行い、住民からも事業者からも情報提供や意見をもらえるようにします。意見や情報は、SNS等も活用し、できるだけ気軽な形で受け取れるようにします。
- 現在の町民の方だけでなく、元町民の方も池田のなかまとして協力できる体制を作ります。
- 観光事業者同士の横のつながりを強化するため、観光協会において研修事業を実施します。

【事業の例】

- 役場で策定している計画や、実施している事業を適切に公開する。
- 「同窓会」単位で、イベントへの出店を促す。
- 池田町内で、世代や組織を超えた友達づくりをする。



こっぼい屋の集荷のひとつま



【1】 計画推進の方針

- この計画は、観光を推進することが目的ではなく、観光という切り口で、むらづくりを行っていかうとするものです。
- そのため、観光関係者や役場だけが計画を実行するのではなく、観光とは直接関係のないお仕事や、大人だけでなく子どもたちも、この計画の主役です。
- 心地よく自分の生活を楽しむ、又は個性を生かしながら自分の事業を実施する「自助」、仲間や集落、事業者同士などで助け合う「共助」、役場や観光協会などが施策や事業を計画・実施したり、人や組織とのパイプ役を行う「公助」の役割分担で、観光むらづくり計画を推進します。

【2】 計画推進に向けた役割

(1) 自助

① 住民(観光に直接かかわらない事業所や住民団体を含む)

- ・自分の家の周り、さらにもう一歩先も気に掛けながら、心地よい暮らしを作っていきます。また、集落や地域の活動に自発的に関わっていきながら、お互いが気軽に、頼り頼られる関係を作っていきます。
- ・町内で実施される行事で気になるものには、少しでも見に行ってみるようにします。
- ・池田町産品を購入、使用するようにします。
- ・同級生のつながりや、ご近所のつながり、仕事や趣味、PTAのつながりなど、町内外で友達づくりをします。
- ・池田町のいいところを一つでも答えられるようにします。
- ・自分と家庭と地域の少し先の未来を考え、地域づくりに関わっていきます。

② 事業者及び事業所(観光関係事業者及び観光関係団体)

- ・事業者は、本計画推進にあたって、主体的役割を担うとともに、観光振興施策に積極的に協力するよう努めます。
- ・それぞれ個性ある事業を実施するとともに、人材育成に努めます。
- ・時代のニーズに応えるメニューづくりや施設整備を行います。
- ・町産品の使用、提供を行うとともに、町産品を活用した商品やサービスの開発に努めます。
- ・町内の他事業者と、積極的に協力連携を図ります。

(2) 共助

① 集落

- ・集落は、集落の未来について考え、持続可能で自立した集落づくりを行います。
- ・集落や地区の行事を運営しながら、住民同士のつながりを作ります。
- ・地域の自然や歴史、文化、伝統行事の保存継承に努めます。
- ・自主的な防犯、防災活動を行い、安心な集落づくりを行います。

② 各種団体や仲間同士、事業者同士

- ・各団体で仲間を増やす取組を行います。
- ・事業者間の協力・連携を図り、他産業との連携を進めます。



(3) 公助

①いけだ農村観光協会

- ・観光協会は、本計画の推進にあたり中心的役割を担い、具体的戦略に積極的に関与します。
- ・役場と協力しながら、事業者や来訪者に関するデータの収集と分析を行います。
- ・誘客促進のためのPR活動や営業活動等、観光振興事業を積極的に展開する主体となります。
- ・事業者の人材育成や、事業者間連携の一助となる事業を展開します。
- ・幅広い人的ネットワークづくりなどの支援、連携を行います。

②三セク機関(池田町農業公社・池田屋・まちUPIいけだ)

- ・一事業者として、本計画の実施主体であるとともに、個性豊かな事業を実施します。
- ・自らも他事業者と積極的に協力連携を図るとともに、個人と農業者、個人と事業者、農業者と事業者、事業者と事業者など、多様な連携を促進します。

③役場

- ・役場は、本計画の推進のため、各種事業の事務局的立場で、各団体の調整等を行いながら、関係団体や住民と連携して、具体的戦略を実施します。
- ・池田町の知名度アップに向けた取り組みを実施します。
- ・個人や集落、団体、事業者の観光むらづくりに関する取組へのバックアップを行います。
- ・町民参加の観光むらづくり活動を支援し、町民の観光に対する理解の促進を図ります。
- ・国や県、他市町村との連絡調整を図り、必要に応じて連携しながら広域観光を推進していきます。

【3】 計画の進捗管理と効果検証

(1) 池田町観光むらづくり推進会議

計画の具現化のための具体的施策の検討と、計画の進捗状況把握のため、役場内に役場全課局職員及び観光協会職員で構成する「池田町観光むらづくり推進会議」を設置します。

推進会議では、年度ごとに具体的施策の実行計画を立てるとともに、進捗状況の把握を行います。

なお、令和6年度までの計画期間中に、社会情勢や町の状況に大きな変動があった場合、推進会議で計画を見直します。

(2) 池田町観光むらづくり計画効果検証委員会

計画の進捗状況の確認と効果検証のため、池田町観光むらづくり計画策定懇話会委員を中心とした「池田町むらづくり計画効果検証委員会」を設置します。

効果検証委員会では、推進会議から報告を受けた進捗状況等の確認と効果検証を行い、計画推進に関する助言を行います。



計画策定の経過

| 開催日 | 会議等 |
|------------|---------------------------|
| 令和元年 9月 9日 | 第1回策定懇話会 現状と課題の整理 |
| 令和元年11月11日 | 第2回策定懇話会 SWOT分析 |
| 令和元年12月16日 | 第3回策定懇話会 基本理念・基本方針について |
| 令和2年 2月17日 | 第4回策定懇話会 計画(案)について |
| 令和2年 2月18日 | 答 申 |

池田町観光むらづくり計画策定懇話会 委員

| 区分 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|-----------------------|
| 委員長 | 野田 満 | 首都大学東京 都市環境学部観光科学科 助教 |
| 委員 | 澤崎 美加子 | 農業法人・旅館業 |
| | 山口 典子 | 飲食店経営 |
| | 溝口 香織 | 食品加工事業者 |
| | 丸山 裕史 | 一般財団法人職員 |
| | 佐々木 麻梨奈 | 一般財団法人職員 |
| | 赤坂 晃治 | まちおこし事業者 |
| | 山田 高裕 | 株式会社まちUPいけだ 専務 |
| | 原 義樹 | いけだ農村観光協会 事務局長 |
| 事務局 | 山崎 政弥 | 池田町役場農村政策課 課長 |
| | 森田 華奈 | 池田町役場農村政策課 主幹 |
| | 石田 ほなみ | 池田町役場農村政策課 主事 |



令和2年2月

福井県池田町 農村政策課